

I 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

エコ地域デザイン研究センターの理念・設置の目的に基づき、国内のみならずドイツやEUにおけるグリーンインフラの都市計画への反映状況や、日本での自然、歴史、伝統産業・文化を現代に活かすまちづくり等の日本の地方都市が目指すべき方向性を明示するシンポジウムやセミナーも開催し、研究成果及び外部資金の応募獲得実績も良好であり、評価できる。研究成果に対する社会的評価は、外部からの組織評価でも十分行われている。本研究センターの特色の1つである水都研究に関する活動を充実させ、一層の社会への発信力の向上に向けた地域性のある国内外への取り組みが期待される。また、新規外部資金の獲得により、新規分野での発展性への期待も多く、今後の内部質保証のさらなる充実のための検討も併せてお願いしたい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

2016年度は大学評価委員より、事業遂行内容、内部質保障、外部資金獲得実績という基準において、その体制が概ね良好であると評価を得た。加えて、当センターのこれまでの研究成果を活かした社会に対する発信力、国内外での幅広い取り組みに、大きな期待が寄せられている。こうした評価結果を受けて、今年度は、これまでの良好な体制を維持しつつも、さらなる発展を目指すために、方向性、ビジョンの再検討を実施してきた。そのため、月に一回開催される運営委員会では、今後の当センターのビジョンについてブレインストーミングを実施し、来年度以降の活動内容や、外部資金獲得のための基礎を固めることに努めてきた。恒例の年度末報告会は、こうしたビジョンを打ち出していくために、あえてシンポジウム形式で実施し（「都市と地域の思想の転換点」）、センターの今後の戦略を広く社会に向けてアピールすることに取り組んできた。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

エコ地域デザイン研究センターでは、前年度の大学評価委員会の評価結果を受けて、更なる発展を目指すために、方向性、ビジョンの再検討がされてきた。恒例の年度末報告会では、こうしたビジョンを打ち出していくために、「都市と地域の思想の転換点」をテーマとしたシンポジウム形式で実施し、センターの今後の戦略を広く社会に向けてアピールすることに努められてきた。外部資金獲得のための努力を含めて、これらは優れた取り組みであると評価したい。

II 自己点検・評価

1 内部質保証

(1) 点検・評価項目における2016年度の現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・内部質保障に関する各種委員は、運営委員会において適切に活動している。
- ・運営委員会の構成委員は所長・副所長を含め13名の教員であり、議題に応じてはオブザーバーの参加も規定上認められている。運営委員会では各委員からの報告を受け、それに依って広く議論を行い、質の向上に努めている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度以降の活動の質的向上、外部資金獲得に向けて、月一回の運営委員会で、センターの今後のビジョンについてのブレインストーミングを実施し、質の向上に努めた。またその成果は、年度末報告会の議論を踏まえ、適宜校正を行い、ウェブ上で公開、発信することを予定している。 	

【この基準の大学評価】

※上記(1)～(2)の記載内容に基づき基準全体の評価を記入。

エコ地域デザイン研究センターの内部質保証に関する各種委員会は、所長・副所長を含め13名の教員で構成されている運営委員会において活動しており、評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

2 研究活動

【2017年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 研究所の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。
2016年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。
①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）
※2016年度に実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を箇条書きで記入。
■日野プロジェクト
・仲田の森遺産発見プロジェクト支援「旧蚕糸試験場日野桑園 第一蚕室公開(東京文化財ウィーク企画事業)」 日時：2016年11月13日(日) 主催：日野市教育委員会生涯学習課・緑と清流課・仲田の森遺産発プロジェクト 協力：日野市郷土資料館／蚕糸の会・日野／まちかどの近代建築写真展実委員会・近代建築探訪メーリングリスト／首都大学東京大学院・建築プロジェクト研究コース／法政大学エコ地域デザイン研究センター／一級建築士事務所 COCOON 設計室
・日野市中央公民館講座：「水都日野の歴史と今後～水の資産を活かした地域づくり」 講師：陣内秀信、日時：2016年11月26日、主催：日野市中央公民館
■源流プロジェクト
・2016年度小菅村源流プロジェクト源流体験 ①古代大麦の種まき体験、日時：2016年11月26日(土)、場所：大月市壬生 ②縁の小屋補修、日時：2016年11月27日(日)、場所：小菅村
■府中・多摩プロジェクト (LID+GI)
・水都府中研究会 ①歩く会第8回「国府から東海道へ」、日時：2017年1月14日(土)、府中市高安寺及び町田市小野路ほか
・野川GI研究 ①第一回野川GI研究会、日時：2016年5月16日(月)、場所：調布市たづくり映像ホール ②第一回世田谷GI研究会、日時：5月24日、場所：世田谷区砧支所3階・集会室D ③第二回世田谷GI研究会、日時：6月8日(水)、場所：世田谷区砧支所2階活動フロア ④第三回世田谷GI研究会、日時：7月6日(水)、場所：世田谷区砧支所3階・集会室A・B ⑤日韓連携GI交流セミナー、日時：8月4日(水)、場所：法政大学市谷校舎ポアトター25階B ⑥第二回野川GI研究会、日時：2016年9月16日(金)、場所：調布市たづくり大会議室 ⑦第三回野川GI研究会、日時：2016年11月24日(木)、場所：調布市たづくり大会議室 ⑧第四回世田谷GI研究会、日時：12月6日(火)、場所：世田谷区役所第2庁舎会議室
■外濠市民塾
・第7回外濠市民塾 日時：2016年4月24日(日)、会場：土木学会、テーマ：「外濠の将来を考えよう」、参加：70名
・第2回外濠再生懇談会 日時：2016年1月19日(木)、会場：法政大学市ヶ谷田町校舎T311、参加：50名
・外濠アフタースクール(SAS) 外濠ランニングプロジェクト vol.1 日時：2016年7月17日(日)、会場：江戸城外濠・牛込濠周辺、神楽坂、飯田橋 外濠ランニングプロジェクト vol.2 日時：2016年10月8日(土)、会場：江戸所外濠・真田濠周辺。四谷 外濠ランニングプロジェクト vol.3 日時：2016年12月23日(金)、会場：江戸城外濠・市ヶ谷濠周辺、四谷、市ヶ谷

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- ・第41回法政大学大学院まちづくり都市政策セミナー『地域を運営する—多様な主体によるローカルガバナンスに向けて—ポスターセッション「学生たちがフィールドへ—地域づくりの活動実践・研究報告」』
日時：2016年10月22日（土）、会場：法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎1階
- ・東京YMCAファミリーウォーク「江戸城外濠をめぐる—未完の都市公園とハイキング・コース」
日時：2016年11月23日（水）、主催：公益財団法人東京YMCA ※当センター研究員による活動報告を実施。

■千代田学

- ・大妻さくらフェスティバル2017—千代田学事業報告ポスター参加—、2017年3月25日

■シンポジウム・講演会

- ・講演会『『水都史』で見る桐生の都市像』
日時：2016年12月13日、会場：桐生市商工会議所
講師：陣内秀信＋佐羽宏之（三立応用化工株式会社代表取締役社長）
主催：水都・桐生研究会、協力：法政大学エコ地域デザイン研究センター、後援：桐生市、桐生市教育委員会、桐生商工会議所
参加：約40名
- ・講演会「日野の用水の面白さを発見！～水都日野の歴史と今後、水の資産を活かした地域づくり」
日時：2016年11月26日、会場：日野市立中央福祉センター、講師：陣内秀信、主催：日野市中央公民館
- ・シンポジウム「第25回神田川サミット2016」
日時：2016年10月22日（土）13:00～16:30、会場：法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲートG601
講師：陣内秀信、主催：神田川ネットワーク＋外濠市民塾、協賛：（特活）武蔵野多摩環境カウンセラー協議会
運営協力：法政大学エコ地域デザイン研究センター、
後援：東京都建設局、三鷹市、武蔵野市、杉並区、中野区、新宿区、文京区、中央区、台東区
参加：約120名
- ・日韓連携グリーンインフラ研究交流セミナー「釜山大学LID+GI研究棟における試験をめぐる～今、GIに何が求められているか？」
日時：2016年8月4日（木）17:00～20:00、会場：法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー25階B会議室
講師：釜山大学シン・ヒュンスク教授（釜山大学国土緑色研究所所長）、主催：法政大学エコ地域デザイン研究センター
参加：約30名
- ・講演会「倉庫リノベーションの現状とこれから」
日時：2016年7月7日、会場：日本大学理工学部まちづくり工学科、講師：大隈 哲、参加：約40名
- ・JIA関東甲信越支部 アーキテツガーデン2016「市ヶ谷・富士見・神楽坂 外濠をめぐる凹凸探検まち歩き」
日時：2016年6月25日（土）13:30～17:30、会場：法政大学市ヶ谷田町校舎マルチメディアホール
講師：北見恭一（新宿区文化観光課学芸員）、高道昌志
主催：日本建築家協会千代田地域会・新宿地域会、法政大学エコ地域デザイン研究センター
後援：新宿区、協力：東京理科大学神楽坂地域デザインラボ
参加：約20名
- ・第5回 JUDI 関東セミナー・シンポジウム「建築・まち・公共のリノベーション」
日時：2015年9月18日、会場：法政大学・市ヶ谷田町校舎
パネリスト：大隈 哲／江川直樹／韓垂由美、モデレーター：高見公雄
参加：約40名

■2016年度報告会

- ・法政大学エコ地域デザイン研究センター年次報告会「都市と地域の思想の転換点」
日時：2017年2月27日（月）、会場：法政大学市ヶ谷田町校舎マルチメディアホール
参加：約60名

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※2016年度に刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等）の詳細を箇条書きで記入。

■刊行書籍

- ・難波匡甫『都市と堤防—水辺の暮らしを守るまちづくり』水曜社、2017年3月1日

【概要】近年、東京の水辺再生の機運が高まりをみせているが、水害から地域を守る防潮堤が都市と水辺との関係性を阻害する要因となっている。本書では大阪との比較において、東京の防潮堤整備の背景や対策の特徴を明らかにするとともに、歴史や文化を含む地域形成史の視点から都市における堤防のあり方を問い直し、水辺の暮らしを守るまちづくりを喚起する。

■報告書

- ・JIA日本建築家協会・再生部会（大隈哲ほか）＋東京弁護士会・歴史的建造物部会『今、ある良い建物をこれからも使い続けていくために』既存建物を使い続けていくための諸制度見直し研究会、2016年9月10日、公益財団法人トヨタ財団助成
- ・『アマルフィ海岸のヴェネトリー・スル・マーレー都市と分散集落からなるテリトリー』法政大学デザイン工部建築科陣内研究室、2016年8月15日

■審査論文

- ・高道昌志「明治期東京の河岸地拝借人からみた地域構造の変容に関する研究～神田川の神楽河岸・市兵衛河岸・飯田河岸の周辺を対象に～」『日本建築学会計画系論文集』第81巻730号、2016年12月、pp.2849-2856.
- ・石渡雄士「関東大震災前後の横浜港における港湾施設の空間構成に関する研究 鉄栈橋と新港埠頭の上屋と倉庫を対象として」『日本建築学会計画系論文集』第81巻729号、2016年11月、pp.2561-2571.
- ・陣内秀信「水都史から見たヴェネツィアと東京の比較論」『都市史研究』3、2016年11月、pp.65-81.
- ・陣内秀信「アマルフィ海岸の真の豊かさ-自然と歴史が活かされる地域の底力-」『紫明』（特集：イタリア）第39号、2016年9月、pp.2-7.
- ・長野浩子「非農家市民による都市農地における活動とまちづくりに関する研究-日野市S農園の活動の事例より-」『日本建築学会計画系論文集』第81巻725号2016年7月、pp.1531-1539.
- ・水田恒樹+陣内秀信「ウォーザン、マンチェスターの都市空間に関する分析と考察-米国北東部の水力工業都市の空間構造に関する事例研究-その2」『日本建築学会計画系論文集』第81巻722号、2016年4月、pp.1037-1046.

■その他の論文

- ・潮優香子・高道昌志・松浦萌・福井恒明「九段地区花街の生業の実態と空間構成の変遷」第12回景観・デザイン研究発表会、2016年12月10-11日（ポスター発表）
- ・芳賀徹也・福井恒明「公開空地の滞留特性と実態」『景観・デザイン研究・講演集』No.12、土木学会、2016年、pp.1-6
- ・渡邊翔太・福井恒明「新聞記事にみる東京山の手河川と江戸城外濠」『景観・デザイン研究・講演集』No.12、土木学会、2016年、pp.208-215
- ・坂元泰平・福井恒明「地域史の時空間表現-千代田区番町・麴町地区を対象として-」『景観・デザイン研究・講演集』No.12、土木学会、2016年、pp.316-319

■その他の刊行物

- ・長野浩子「日野用水と市民・行政・大学の関わり」『日野用水開削450年！-昨日と今日、そして明日へ』日野市発行、2017年3月発行予定
- ・大隈哲+池田浩大（企画・編）『ウェアハウス スタイル2』樫出版社、2016年10月30日
- ・高橋賢一+橋本千代司「市民の協働による水田・用水路保全対策」、『都市農地とまちづくり第71号』一般財団法人都市農地活用支援センター、2016年10月、pp.20-25

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）

※研究所のこれまでに発行した刊行物に対して2016年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や2016年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）の詳細を箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>
<p>④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）</p> <p>（～400字程度まで）※2016年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。</p> <p>当センターでは、月一回の頻度で運営委員会を実施している。運営委員会の構成委員は所長・副所長を含めた13名の教員と、議題に応じてオブザーバーの参加も規定上認められている。そのため、運営委員会では各委員からの報告に対し、学内外を問わず、幅広い立場の方々からの意見や指摘を受ける体制が整っている。加えて、各プロジェクトでは、地域の町会や企業、行政との連携が取られているため、事業内容についてその都度評価を受ける柔軟な体制が築かれている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>
<p>⑤科研費等外部資金の応募・獲得状況</p> <p>※2016年度中に応募した科研費等外部資金（外部資金の名称、件数等）および2016年度中に採択を受けた科研費等外部資金（外部資金の名称、件数、金額等）を箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千代田学「千代田区デジタルアトラスの活用～歴史文化と賑わいに関するコンテンツ充実～」2016年4月～2017年3月、2016年度事業額：663,000円 境港市委託研究「港と妖怪のまち境港街づくり研究」2016年4月～2017年3月、2016年度事業額：776,628円 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
<p>・各プロジェクトは、昨年度までのネットワーク、成果を活かしながら、着実に前進を続けている。特に、外濠市民塾プロジェクトでは、これまでの大学、地元、行政、企業の連携に加え、地元の高校（三輪田学園）との交流がはじまったことが特筆される。</p>	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<p>・昨年度までの大型外部資金（科研基盤S）による調査研究の成果が、今年度の審査論文、並びに報告書の刊行に繋がった。書籍、論文の精力的な刊行を継続するため、次年度以降も外部資金の獲得が求められる。</p>

【この基準の大学評価】

<p>エコ地域デザイン研究センターの研究・教育活動実績は、「日野プロジェクト」等、複数のプロジェクトや多くのシンポジウム開催や刊行物、審査論文など多岐にわたっており、高く評価できる。</p> <p>外部資金についても2件獲得しているが、一層の充実が望まれる。</p> <p>研究成果に対する社会的評価の確認と外部からの組織評価も今後の検討課題と思われる。</p> <p>新たなビジョンと構想に基づき、さらなる飛躍が期待できる。</p>

III 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準	研究活動
現状の課題・今後の対応等	<ul style="list-style-type: none"> 日野プロジェクトでは、これまでの成果を生かしながら、養蚕・絹をテーマに外部資金を獲得し、実践的な活動を伴いながら、より一層盛り上げていくことが必要。 外濠プロジェクトもエコ研の柱として据えていく。全国の城下町との比較や、地方城下町を水都の視点(水利、産業、遊び)から評価し、全国的な活動へと繋げていく。 次のステップを目指して、新しい構想と意味づけ、そして普遍性を備えた切り口を開拓し

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		ていくことが求められる。 ・海外との比較は引き続き継続。
年度末 報告	執行部による 点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・日野では、エコ地域デザイン研究センターが関わる、仲田の森遺産発見プロジェクトチームが中心となり、旧蚕糸試験場が登録有形文化財に指定されるなど、大きな動きが見られた。 ・外濠プロジェクトでは、神田川サミットの開催などを通じて、活動のネットワークをさらに広げることに成功した。この成果を足掛かりに、全国の城下町との連携など、研究活動の幅を広げていきたい。 ・来年度の私立大学ブランディング事業の申請に向けて、当センターと国際日本学研究所での共同ワークショップを開催してきた。これまでエコ研が培ってきた成果や考え方をさらに押し広げ、江戸東京に内在する普遍的な価値を読み解くため、その足場を固める議論を行ってきた。 ・毎年恒例となっている年度報告会では、これまでと趣向を変え、エコ研の次のステップを切り開くためのテーマを設定し執り行った(テーマ「都市と地域の思想の転換点」)。 ・韓国釜山大学と合同セミナーを開催するなど、海外との比較研究には引き続き取り組んでいる。また、上記の私立大学ブランディング事業に向けてのワークショップでは、江戸東京を海外の都市と積極的に比較していくことが重要なテーマであることを再確認している。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

<ul style="list-style-type: none"> ・日野では、エコ地域デザイン研究センターが関わる、仲田の森遺産発見プロジェクトチームが中心となり、旧蚕糸試験場が登録有形文化財に指定されるなど、大きな動きが見られた。 ・外濠プロジェクトでは、神田川サミットの開催などを通じて、活動のネットワークをさらに広げることに成功した。 ・私立大学研究ブランディング事業の申請に向けて、当センターと国際日本学研究所での共同ワークショップを開催したが、江戸東京を海外の都市と積極的に比較していくことが重要なテーマであることを再確認した。 ・年度報告会では、エコ研の次のステップを切り開くためのテーマを設定し執り行った(テーマ「都市と地域の思想の転換点」)。 ・韓国釜山大学と合同セミナーを開催するなど、海外との比較研究には引き続き取り組んだ。 <p>上記の取り組みは、今後効果が期待される。</p>

【大学評価総評】

<p>エコ地域デザイン研究センターの取り組みについては、方向性、ビジョンの再検討をはじめ、概ね評価できる。外部資金の調達努力が、今後幅広い活動に繋がっていくのではないかと期待する。</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。